

## 1 目的

学生・院生を対象とした経済支援策の検討を行うために、学生・院生の生活と家計の状況と支援ニーズについて把握すること。あわせて第1次調査(5月)からの変化、支援制度の利用状況と評価を把握すること。

## 2 調査の概要

### (1) 調査対象と方法

教育学部学生(2年生以上)、教育学院院生、研究生全員(合計410名)を対象とし、グーグルフォームによるWEB上でのアンケートへの記入。学生・院生への一斉メール配信、講義での案内等で、学生・院生に協力依頼とURLの送付を行った。調査期間は2020年11月4日(水)から11月16日(月)まで。

### (2) 回答率

54.9% 回答数:225/調査対象数:410 (5月66.0%)

属性ごとの回答率	学部学生	48.9% (93/190)	(5月69.5%)
	修士課程院生	68.3% (69/101)	(5月78.2%)
	博士課程院生	60.0% (60/100)	(5月51.9%)
	研究生	10.5% (2/19)	(5月18.2%)
	(留学生・内数)	84.4% (54/64)	(5月76.4%)

### (3) 実施主体

教育学部経済環境支援WG(松本伊智朗 上原慎一 鳥山まどか 光本滋)

## 3 調査結果の概要(表1 表2)

### (1) 生活の状況

集計結果(単純集計)は表1、表2を参照。特に留意すべき点を以下に挙げる。なお、回答者の76.0%が一人暮らしで、親、保護者と暮らしているのは15.8%である。5.4%は扶養家族がある。

#### 1) 健康への影響が懸念される

- ・すでに「栄養のバランスを考慮した食事をとることが経済的に困難」であるものは8.6%、この1~2カ月の間に陥る可能性があるものは14.0%で、合計22.5%となる。
- ・すでに「医療費を節約したり、経済的な理由で必要な受診を抑制している」ものは15.7%、この1~2カ月の間に陥る可能性があるものは7.6%で、合計23.3%となる。

#### 2) 延滞納、借入金での補てん等、生計困難リスクが懸念される

- ・「家賃の滞納・支払い困難(5.8%)」「水光熱費・通信費等の滞納・支払い困難(5.8%)」「借金で生活費や支払いを補てん(9.9%)」「リボ払い等の支払い先延ばし(実質的な借金)(13.9%)」等、すでに生計費維持が困難になっている学生・院生が存在している。
- ・この1~2カ月の間に上記の困難に陥る可能性を感じている学生・院生を含めると、1割から2割の学生・院生が生計困難リスクに直面していることが推察される。

#### 3) 学習や研究への支出削減がみられる

- ・すでに「学習や研究にかかる費用の支出を減らしている」ものは、20.6%、この1~2カ月の間に陥る可能性があるものは11.7%で、多くの学生、院生の学習、研究への影響がみられる。

4) 休学、退学のリスクに直面している学生、院生が存在している

- ・すでに「経済的な理由で休学・退学を考えている」ものは9.4%、この1~2カ月の間に陥る可能性があるものは5.8%である。
- ・後期授業料の支払いが困難であるものは15.3%である(表2)。後期は支払えるが来年度前期の支払いが困難である者は、10.4%である。上記を勘案すると、10%~20%の学生・院生が休学、退学リスクに直面している。

5) 上記の状況はすべて、第1次調査時点(5月)から悪化している。この点に最大限の留意が必要である。

表1 生活の状況

	すでにその状態	1~2カ月で可能性	その心配あり	その心配なし
栄養のバランスを考慮した食事をとることが経済的に困難 (第1次アンケート結果:5月時点)	8.6 5.9	14.0 11.8	25.7 24.6	51.8 57.8
医療費を節約したり経済的な理由で必要な受診を抑制 (第1次アンケート結果:5月時点)	15.7 8.0	7.6 7.3	24.7 20.8	52.0 64.0
家賃を滞納したり支払いが困難な状況 (第1次アンケート結果:5月時点)	5.8 3.1	9.0 13.8	21.1 15.6	64.1 67.5
水光熱費や通信費などを滞納したり支払いが困難な状況 (第1次アンケート結果:5月時点)	5.8 2.8	9.7 14.2	21.5 18.0	62.8 65.1
友人・知人からの借金、貸金業者からの借入金で生活費の補てん (第1次アンケート結果:5月時点)	9.9 5.5	6.7 4.5	11.7 14.5	71.1 75.4
携帯・スマホ払いやリボ払いで支払いを先延ばし (第1次アンケート結果:5月時点)	13.9 10.7	5.4 6.2	12.1 10.0	68.6 73.0
学習や研究にかかる費用の支出を削減 (第1次アンケート結果:5月時点)	20.6 19.7	11.7 8.7	29.1 25.3	38.6 46.0
経済的な理由で休学や退学を考えている (第1次アンケート結果:5月時点)	9.4 3.5	5.8 4.2	17.5 13.8	67.3 78.5

表2 授業料支払いの見通し

		第1次調査結果:5月
今年度の後期授業料の支払いが困難である	15.3	10.7(今年度前期)
今年度の後期授業料は支払えるが、来年度の前期授業料の支払いが困難である	10.4	9.3(今年度前期・後期)
今年度後期および来年度前期授業料ともに支払える見込みである	55.9	66.1(今年度前期・後期)
授業料が免除されている・免除される見通しである	18.5	13.8

(2) 経済的困難の変化と見通し(表3 表4)

- ・38.7%の回答者が、経済的困難を感じている。5月時点から状況が改善したものは全体の27.9%存在するが、うち18.9%は然として経済的困難を感じている。一方で5月時点から継続して経済的困難を感じていない回答者は52.7%になり、回答者のなかで両極化していることを示している。
- ・今年度末ごろまでに、現在より状況が好転する見通しを持つものは、4%にとどまる。

表3 経済的困難の状況と5月時点からの変化

経済的困難を感じていない	61.3	特に変化はなく、経済的な困難を感じていない	40.5
		以前と比べて悪化したが、経済的困難を感じるほどではない	12.2
		以前と比べて良くなり、経済的困難を感じなくなった	9.0
経済的困難を感じている	38.7	経済的困難が続いていると感じる	6.3
		以前と比べて悪化し、経済的困難を感じている	13.1
		以前と比べて多少良くなったが、経済的困難を感じている	18.9

表4 今年度末ごろまでの経済状況の見通し

現在よりもよくなると思う	4.0
今の状況が継続すると思う	63.7
状況が今より悪化すると思う	22.0
わからない	10.3

### (3) 制度利用の状況(表5)

- ・給付による支援制度を利用できたものは、少数に留まる(文科省給付25.8%、北大緊急支援金25.9%、学部独自奨学金15.4%)。(学部独自奨学金は申請者すべてに支給しているが、不採用と回答したものが存在。制度名の混同、申請確認漏れの可能性があり、後者の可能性について学生への周知が必要)。
- ・申請者の評価から、情報へのアクセス、申請書記入と提出、必要書類の準備に改善点があることが示唆される。学部独自奨学金に「特に問題はない」の回答比率が高いのは、所得状況等の書類提出を求めず、生活状況の自己申告のみで給付手続きを行ったからだと思われる。
- ・申請をしなかった理由に、制度の不知、申請方法のわかりにくさ、提出書類準備の困難が存在していることに、留意が必要である。

表5 制度利用の状況

	文科省給付	前期分割納付	緊急授業料減免	北大緊急支援金	学部独自奨学金
申請、利用した	25.8	4.5	9.0	25.9	15.4
申請したが不採用	8.0	—	4.5	11.7	3.2
申請していない	66.2	95.5	86.4	62.8	81.4
<b>申請した人のみ回答(n)</b>	<b>76</b>	<b>10</b>	<b>30</b>	<b>83</b>	<b>41</b>
制度の案内や情報にアクセスするのが難しかった	17.1	10.0	16.6	18.0	12.2
申請書の書き方がわかりにくかった	27.6	30.0	36.6	25.3	7.3
申請に必要な書類を準備するのに手間取った	50.0	40.0	60.0	37.3	9.8
書類提出の方法が不便だった	19.7	0.0	23.3	18.0	2.4
特に問題はない	28.9	50.0	33.3	41.0	82.9
その他	1.3	10.0	3.3	2.4	2.4
<b>申請しなかった人のみ回答(n)</b>	<b>149</b>	<b>211</b>	<b>191</b>	<b>140</b>	<b>180</b>
制度があることを知らなかったから	6.7	6.6	5.8	6.4	6.7
申請方法がわかりにくかったから	2.0	0.9	1.6	2.1	3.3
申請に必要な書類を準備できなかったから	4.0	2.8	2.6	4.3	1.7
利用条件を満たしていないと判断したから	54.4	33.2	46.6	44.3	41.7
利用する必要がなかったから	32.2	46.9	39.6	42.9	43.9
その他	0.7	8.1	4.7	—	0.1

文科省給付：文部科学省「学生支援緊急給付事業（「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』）」

（住民税非課税世帯の学生 20 万円、それ以外 10 万円の給付）

前期分割納付：北海道大学が実施した前期授業料分割納付

緊急授業料減免：北海道大学が実施した緊急減免措置

北大緊急支援金：北海道大学が独自に実施した給付金（困窮度に応じて 5 万円、あるいは 10 万円給付）

学部独自奨学金：教育学部・教育学院が独自に実施した「緊急特別奨学金制度」（3.5 万円給付）

#### （４）留学生の状況（表 6 表 7）

- ・日本人学生、留学生ともに深刻な状況に置かれている院生、学生は存在するが、特に留学生にその比率が高い。
- ・特に食事の栄養バランス、受診抑制など、健康リスクに直結する問題、家賃支払いなど生活基盤の維持が困難になる状況が多くみられることに、留意するべきである。
- ・留学生の約半数が後期授業料支払いに困難を感じていることは、深刻な事態である。仮に滞納、未払い等を防げたとしても、それは表 6 にみられるような生活の切り詰め、借入金等で対応していることが示唆される。

表 6 生活の状況 留学生と日本人学生別

		すでにその状態	1～2カ月で可能性	その心配あり	その心配なし
栄養のバランスを考慮した食事をとることが経済的に困難	留学生	17.0	30.2	39.6	13.2
	日本人学生	5.9	8.9	21.3	63.9
医療費を節約したり経済的な理由で必要な受診を抑制	留学生	27.8	18.5	38.9	14.8
	日本人学生	11.8	4.1	20.1	63.9
家賃を滞納したり支払いが困難な状況	留学生	20.4	14.8	38.9	25.9
	日本人学生	1.2	7.1	15.4	76.3
水光熱費や通信費などを滞納したり支払いが困難な状況	留学生	14.8	18.5	37.0	29.6
	日本人学生	3.0	7.1	16.6	73.4
友人・知人からの借金、貸金業者からの借入金で生活費の補てん	留学生	20.4	14.8	25.9	38.9
	日本人学生	6.5	4.2	7.1	82.1
携帯・スマホ払いやりポ払いで支払いを先延ばし	留学生	33.3	7.4	25.9	33.3
	日本人学生	7.7	4.7	7.7	79.9
学習や研究にかかる費用の支出を削減	留学生	33.3	20.4	33.3	13.0
	日本人学生	16.6	8.9	27.8	46.7
経済的な理由で休学や退学を考えている	留学生	11.1	14.8	29.6	44.4
	日本人学生	8.9	3.0	13.6	74.6

表 7 授業料支払いの見通し 留学生と日本人学生別

	留学生	日本人学生
今年度の後期授業料の支払いが困難である	48.1	4.8
今年度の後期授業料は支払えるが、来年度の前期授業料の支払いが困難である	18.5	7.7
今年度後期および来年度前期授業料ともに支払える見込みである	18.5	67.9
授業料が免除されている・免除される見通しである	14.8	19.6

#### 4 まとめ

(1) 以下は第1次アンケート調査報告のまとめの一部である。今回の調査においても、同様の点が指摘される。

- ・緊急的な経済支援が必要である。特に健康リスク、生計維持困難の緩和が優先的な課題である。個別の借金による生計費補てんは、今後の見通しが立たない中では、負債が困難の長期化・深刻化を招くこと、友人等の社会関係に問題を発生させるリスクを含むこと、メンタルヘルス上の問題の原因になる可能性があることに、留意する必要がある。
- ・今後の見通しに不安を持つ学生、院生が多く存在している。中期的、長期的な経済支援の枠組みが必要である。
- ・学習、研究への影響を緩和する方策が必要である。特に追加的に発生している費用の補填、大学の設備が使用できないことへの代替的手段の提供が必要である。
- ・中退リスクへの対応として、学費の減免、支払い猶予を抜本的に拡大する必要がある。
- ・これらの対応は、個々の学部単位では極めて限定的である。北大全体での対応枠組みを早急に構築し、学生院生に周知する必要がある。
- ・すべての学生院生に対して、大学として支援する姿勢を示し、丁寧な説明をする必要がある。

(2) 加えて、今回の調査で新たに確認されたことは以下である。

- ・生活状況を示す指標のすべてで、5月時点から悪化の傾向がみられたこと。したがって経済的支援の必要性が継続しており、より充実させることが求められること。
- ・一方で、5月時点から継続して「経済的困難を感じていない」ものが半数強存在している。上記を勘案すると、以前から経済的困難のリスクを抱えていた層の困難がより深刻化している可能性が示唆される。
- ・外国人留学生の状況が特に深刻であること。
- ・支援制度の対象になった院生・学生は少数に留まり、より一層の拡充が求められる。あわせて制度設計上の改善点が示唆された。

(3) 5月の第1次アンケート調査に比較して、今回は「自由記述」欄の記載が多くかつ具体的である。すべての自由記述は、学生・院生の状況の理解と共有に有益で、学部、大学、社会が取るべき方策の検討に際して示唆に富んでいる貴重なものである。以下に補遺として掲載し共有する。

以上

## 補遺：自由回答（問19 問21）

個人が特定される可能性がある情報は削除、改変している。英語回答は日本語に翻訳している。分類は便宜的なもので、問題は相互に関連し複数の領域にまたがるものが存在していることに留意が求められる。

問9 学生を対象とした経済支援について、制度の仕組みや申請手続き、案内等に関する意見・要望・感想等があればお書きください。

### 制度の必要性、継続性について

- ・授業料の免除、一回切りではなくて持続的な支援などが望ましいです。
- ・経済上の支援がほしいです。生活が苦しくなっています。
- ・緊急奨学金制度もう一回やってほしい
- ・経済支援があって、ほんとうに助かりました。ありがとうございました。
- ・第3波によりバイトの収入が減り生活が不安定になっているため、緊急支援金等の援助をお願いしたいです。

### 案内、情報の取得について

- ・情報が散らばっているので経済支援関連で一箇所にまとまったページがあれば便利だと思った
- ・日本語がわからない学生にとっては、情報へのアクセスが難しい
- ・同じような名前のもので乱立していて分かりにくい印象をうける
- ・コロナ禍より、いつも学生のために動いてくださりありがとうございます。制度の仕組みや申請手続きの中では北大より給付していただいた制度のものが一番シンプルで分かりやすく、また実際に給付していただくまでの時間も早くとも助かりました。一点、不便だなと感じたのは、色々なところからご案内いただいた奨学金・給付金の制度名がどれも似ていて分りづらかったです。私は、一つの給付金制度しか使用していませんが、複数の制度を利用している方はきっと、どの制度にどの書類をどれだけ用意すればよいのか混乱してしまうだろうと想像していました。名前をわかりやすくするか、申請書類を（できるだけ）統一した方が良いのではないかと思います。差し出がましいですが、今後ともよろしく願いいたします。
- ・経済支援に関するインフォメーションはちょっと探しにくいと思います。
- ・案内などはELMSから逐一配信されるメールで獲得することができるので、大きな問題はありませんでした。

### 支給対象・基準について

- ・対象枠を広げてほしい
- ・家計支持者からの仕送りが少なく、学費と生活費の大半を学生本人が負担しており、今回の流行で学生はバイトが無くなるなど大きな影響を受けたにも関わらず、家計支持者の収入には変動がなかったために学費の免除が認められず、各種支援金の効果がほとんどなくなってしまった。
- ・アルバイトの有無が支援の有無に大きく関わる点は納得ができない
- ・多くの制度が、学生が世帯(扶養なしの独立世帯を含め)の生計維持者かどうかを考慮されていなかったように感じる。
- ・修学年限を1年以上超過する場合、授業料の減免を申請できなくなります。コロナの中、負担が大きすぎだと思います。
- ・コロナになってすぐは経済的見通しもつかず、ネット環境も十分でなかったため、ポケットwifiの貸出がかなり助かりました。支援金等も申込みたかったが、コロナ前の家計状態では基準を満たさなかったため今回断念した。
- ・他大学で私のような状況の人(コロナによる見える経済的困窮はなかったが、研究が環境的に難しくなって、でも学費は全額払う人)が給付金を受け取れていて少し驚いた。学生と一言言っても多様な状況で、一方、困っているのはどの学生も。その支援したい学生がどのような学生(世帯として困窮、コロナによる経済的困窮、そのほか研究としての困難など)なのか分かりづらかったし、その判断を自分でしなければならぬのは自重する人は自重すると思った。
- ・奨学金は別にしても、授業料減免に関して、全ての学生一律に実施すべきだと思います。

- ・条件を全て満たすというのが難しいことが多かったので、軽くしたものがあると助かります。
- ・給付の基準が収入面だけで見られることが多く感じます。自営業で収入が多く見られがちなので、よくはじかれます。収支で考えたらかつかつなのですが、まあ生きていけるんだから必要ないよねと言われたらそれまでです。
- ・全学生一律の経済支援がほしい。

### 手続きについて

- ・要求される書類や手続きを簡潔化していただきたいです。
- ・緊急修学支援金の申請フォームの経済状況の書き方、口座登録の Excel ファイルの書き方がわかりづらかった。そして、ツイッターで支援金を遊興費に使うという学部生のツイートを目にして呆れた。本当に必要な人に届かなかったのではないかと思う。学生全員に生協の書籍利用券支給の方が良かったのでは？
- ・アクセスする条件、手続きとも、その申請を断念させることを目的としているのかと思うほど「手が混んで」いた。生活保護はこのような仕組みなのだろうなど、普段では考えられないようなことを、この機に考えさせてもらった。
- ・申請に必要な書類を準備するのに手間取った。
- ・JASSO の申請時、親の署名や押印のために実家と書類のやり取りをしなければならないのが大変だった。コピー代や速達代などが結構かかった。奨学金を申請する学生は親元を離れて生活している場合が多いのに、書類のやり取りにお金がかかるのは本末転倒ではないか。
- ・家計支持者の課税証明書等について、一度の提出に統一してほしい／援用を認めてほしい。
- ・書類を集めたりするのにとても手間がかかる。そして結局何が必要なのかわかりにくい。

### その他

- ・各経済支援を全部申請した。申請に必要な書類を準備するのに手間がかかった。また、自分がどれだけ貧乏なのか繰り返しアピールした。しかし、結果的に不採用になった。それで、自分の貧しさをはっきり感じされたけど、その状況から抜け出す希望がなくなるという無力感を深めた。不採用になった原因は優秀な学生でしか、助けてもらう価値がないと解釈した。それで、自分自身は助けてもらう価値がない人間と感じた。貧しさにコンプレックス。今は他の経済支援を申請するにあたって、虚しいと感じている。それは、コロナ禍、ミーンズテスト禍、自分の実力禍か分からなくなる。
- ・一時金の緊急支援は受けられたが、学費の減免、分割の申請ができなかった。一時金は生活費になってしまい、学費に回す分がとても少なく、授業料の支払いにはとても苦労した。一時金の支払いも助かったが、学費の支払いに関して分割、減免、延期などを柔軟に対応して欲しかった。

問 21 お金や日々の生活に関する困りごとや心配事、大学や学部に対する要望などがあれば、お書きください。

### 学費、奨学金、経済的問題

- ・家族の会社の業績悪化により、年末から給料が 30%カットになるので、固定費の支払いで精一杯になりそうです。授業料が分割できたらありがたいです。
- ・前期においては実家に戻って生活をする程度出費を減らすことが出来たが、対面授業が再開してからは出費がかさみバイトもなかなか見つからない状況でより一層今後の各種支払いに不安がある。家計支持者はいても仕送りは少なく、学生本人が生活費のほとんどを賄っていて、実家を頼れない学生が多くいるという実態に基づいた支援策や学費の減免を考えて頂きたい。
- ・教科書の費用がないのを望んでおります。
- ・できれば 5 万円の支援がほしいです。一ヶ月分の生活がほしいです。
- ・修士が 3 年目になる場合学費が不安。
- ・研究の進み具合と経済的状況により、休学を考えているが、留学生はビザの関係で、休学が簡単にできない（休学すれ

ば、留学ビザが失効になるため、日本を離れないといけない)。そのため、今後の研究を安心して続けるには、博士課程は三年就学期限を超えても、六年間の在籍期間中に、ずっと授業料減免制度を利用できるようになってほしい(現在は四年間だけ使用できる)。

- ・充実且つ公平な奨学金制度を願っています。特にコロナウイルスに関する一連の緊急支援ではなく、普通の奨学金制度についてである。現在の北大の奨学金選考はどのように行われているのか、いまいち分かりにくいです。そして、各学部ではそれぞれの学習や研究のスタイルは違うため、一緒に選考すれば特定の学部の学生に不利があるのではと考えています。今後、学部・院別の選考枠を設ける必要があるかと考えています。自分は既に利用できない学年であるが、今後の後輩のため、ぜひ北大の各種奨学金の選考制度、特にその選考のプロセス、そして各学部・院で当たった人員数・比などの結果の明示と公開が必要ではないかと思えます。
- ・学費免除していただければ助かります。
- ・希望者全員に給付する支援給付金をもう一度給付してほしい
- ・結局一年間まともな指導を受けることができず、学費を支払うことに、余裕があってやってることではなく、来年度も同じような状況や対策なら休学して研究を続けられるかを検討したい。今年一年と昨年一年で学費の大学側も変わっているはずで、一部でも還付や来年度は一律減免を学部独自でも検討してほしい。
- ・経済的支援の拡充／交流機会の拡充を要望致します。
- ・登校も出来ず、全てオンラインで実施されている状況にもかかわらず、授業料を満額納めなければならない理由がわからない。大学設備も利用できていない。何のための学費なのか。
- ・来年度の授業免除を手厚くできないでしょうか。
- ・生活費を節約しており、研究のほかにやりたいことができず苦しい状況です。
- ・自分が扶養者であるので、収入のほぼすべてを生計の維持に回さざるを得ず、学費の支払い、学会年会費、学会発表経費、研究関連の書籍・資料代にすら注意を払わねばならず、学ぶことがこんなにも贅沢なのかと改めて実感する。
- ・自治体、国の経済的支援は今年の夏までの対策で全て終わったような状況だが、今年の前半で受けた経済的ダメージは、借り入れしている奨学金を生活費に転用し、給付金や大学からの一時金も生活費になり、しかし、学費の減額措置や分割、延納措置がなく、前期の学費の納入に苦労した。また、後期に支払う予定だった学費の分を奨学金から貯めることができなくなったので、学費の支払いの見通しが不透明である。経済支援について、学費の減免・延納に対して申請資格、申請期間を柔軟に対応して欲しい。

## 学習・研究環境、設備利用

- ・生活に困るほどではないが、アルバイトのシフトが減らされて余裕がない。生活が圧迫するほどではないが、通信量が以前よりかかるようになり負担になっている。映像授業となり学部のパソコン室も使える台数が減ったことなどから新しいパソコンの購入を検討(今のパソコンが使えないわけじゃないが重い)したが、余裕がない。大学はパソコンの台数があっても使える状況のやつが少ないので、パソコン室の利用やパソコンを使える場所が増えれば良いと思う。
- ・お忙しい中、いつもありがとうございます。親の収入が安定していて、幸い経済的な不安はなく過ごせています。書籍の購入などはほとんど自分のアルバイトで賄っていますが、感染拡大が進み図書館が使えることを想定してこれまで以上にお金をかけるようになりました。再び感染が拡大すると収入が途絶える可能性があります。授業の課題などは先生方が配慮してくださいますが、卒論や自分の興味関心は待ってくれないので、その点が不安です。オンライン授業に完全移行してしまうと、学生同士のインフォーマルなつながりが途絶えがちです。ゼミによっては茶話会のようなものを実施しているようですが、もう少しそのような場を拡充していただけると助かります。
- ・教育学部のゼミ室を開放して欲しい。
- ・経済的にはなんとかなるが、家族や仕事の感染対策などの影響により、学業を進められず影響が大きい。そうした面からの配慮も検討していただけるとありがたい。
- ・私は社会人院生のため他の学生に比べ経済的影響は大きくないと思えますので、経済的援助の申請の対象にはならないと思えますし、仮に広く対象になるとしても希望するのは申し訳なく思います。ただ、十分な研究環境が整わないこと

で苦労しています。経済的な面だけでなく多様な配慮、支援の方法（たとえば在学年限が影響を受けた数カ月程度延長される等）をご検討いただけるならありがたいです。

- ・経済的理由で研究に必要な文献を取り寄せたり購入できない中、図書館や研究室の閉鎖をされると修論に支障が出る。
- ・学部には、きめ細やかに配慮いただき心強く思っています。これからさらなる感染拡大が予想されますが、大学には第一波の時のような一斉シャットアウトではなく、リスクを回避しながらも研究環境の維持（図書館や研究室の利用）に最大限注力していただきたいと思います。年度末にむけて諸論文の締切の時期となります。どうかよろしく願いいたします。
- ・卒論を学校でやる人が増えてきて、四年生向けに解放されているゼミ室の人口密度は着々と増えつつあるように感じます。（中略：ゼミ室やPC室利用のマナー・ルール逸脱の記述）。感染予防徹底はもちろんですが、学業に励みたいと望む学生が過ごしやすい環境を作って頂けると幸いです。
- ・感染拡大の状況で、大学の研究室がいつ使えなくなるか不安。今年1年間で研究もほとんど進まず、卒業や就職の見通しも立てづらく不安。
- ・これから一層寒くなる時期に入り、自宅で授業を受講したり研究活動を行ったりする（加えて、年末年始に帰省しない）こととなると、暖房費（灯油代）が家計を圧迫することが予想される。学部生の頃は日中は大学にいたので、月の暖房費（灯油代）が5～6千円だったが、自宅中心の生活になると、暖房費だけで1万円以上かかるのではないかと懸念している。現在の北大はBCPレベルが「1」で継続しており、図書館などに通うことも可能であるので、そこまで心配はないが、もし、BCPレベルが上がることに伴う行動制限が入った場合でも大学内に学習環境を整えてくれる場を設けてほしい。
- ・授業料を免除してほしい。大人数研究室の利用が心配。

## メンタルヘルス関連

- ・経済支援も大事だけれどメンタル面の支援を強化してほしい。他大学と比べて手薄だと思う。自分も精神的に限界がきているが相談できる相手がなくてつらい。（中略：学内外の相談機関の使いづらさについて記述）。本当につらい人ほど助けてと言えないものだから、このアンケートにも答えられないくらい追い詰められている人がいるかもしれないので、そういう人を見捨てない大学であってほしいと思う。
- ・抑うつ状態が長引くようになった

## その他

- ・我々学生が学費を払いながらも大学への立ち入りを控えざるをえず（部屋・設備の利用制限等）、仲間との交流も我慢している状況の中で、観光客と思われる方々が構内で楽しそうに過ごされている姿を見ると、やり場のない悲しみ？怒り？辛さ？を感じます。どこに言えばいいかわからないのでここに書かせていただきます。
- ・比較的多い日数で中心部でのアルバイトをしているため、対面授業に参加して媒介する可能性があるのが不安。
- ・金銭的な心配はもちろんありますが、おそらく学生たちはどこまで大学に要求してよいものか判断に困っていると思います。緊急の給付金も正直ありがたさよりもまず、「大学がお金くれるのか」と驚きました。大学側も無理のない範囲で支援を続けていただけたらとてもありがたいですが、どこまで大学側ができるのか・してくれるのかを明記していただけたら、学生としても見通しがついて、ここは頼ろう・ここはなんとかしのいでみよう、と生活のプランを立てやすくなると思います。（そもそもバイトをしないと大学に通えない日本の制度と実態に疑問を持ちますが・・・）
- ・メールでの連絡や通知が来ているが、気をつけていても見落としてしまうことがある。重要な手続きについて、郵送などの対応があれば嬉しい。
- ・消化不良のまま修士課程を修了したくないので、長期履修や休学も考えている。しかしこれ以上就職時期を遅らせてしまうと社会から置いていかれそうな気がして心配。